

# 目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	統括部局：学生活動支援機構	担当部局：学長室・教務機構・教務機構（総合支援センター）・学生活動支援機構
大項目	8 学生支援 《全学的な視点》	
中項目		
小項目	8.0.1 学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう学生支援に関する方針を明確に定めているか。【担当部局：学長室】	
要素	学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する方針の明確化	
小項目	8.0.2 学生への修学支援は適切に行われているか。	
要素	留年者および休・退学者の状況把握と対処の適切性【担当部局：学長室】	
	補習・補充教育に関する支援体制とその実施【担当部局：教務機構】	
	障がいのある学生に対する修学支援措置の適切性【担当部局：総合支援センター】	
	奨学金等の経済的支援措置の適切性【担当部局：学生活動支援機構】	
小項目	8.0.3 学生の生活支援は適切に行われているか。【担当部局：学生活動支援機構】	
要素	心身の健康保持・増進および安全・衛生への配慮	
	ハラスメント防止のための措置	

## II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 「オンリーワン」の学生を育てるために、効果的で総合的な学生支援を推し進める体制を整備する。	→学生支援に関する全学的な方針を定める。	C	B	B	B	/
2. 休・退学者の状況を把握し、退学率を抑制・低減する。	→退学率2%未満を保持する。	B	B	B	B	/
3. 障がいをもつ学生に対して総合的な支援を行う体制を整備する。	→キャンパス自立支援課と学生支援センターの統括	C	A	A	A	/
4. キャンパス・ハラスメント防止に関する研究会を、各組織がそれぞれ最低5年間に1回は開催する(2010年4月段階で、11学部及び併設の研究科、2つの専門職大学院、1つの独立研究科 合計14組織)。	→各組織の研究会開催状況(開催件数)。5年間に最低1回はキャンパス・ハラスメントの講演会を開催する。	B	B	B	B	/
5. 体育館を利用する課外活動団体の活動を強化する。	→総合体育館を使用する課外活動団体8団体(バスケットボール部、バレーボール部、ハンドボール部、バドミントン部、レスリング部、フェンシング部、卓球部、器械体操部)に対して、年間951時間20分の使用時間増を実現する。	B	A	A	A	/

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
6. 2013年度入学者を対象とした入学前予約型奨学金制度を実施する。	→実施の有無	/	/	B	A	/
7. 2013年度より、現行支給奨学金制度の募集時期を変更する。	→実施の有無	/	/	B	A	/
8. 2013年度より、緊急時貸与奨学金制度を実施する。	→実施の有無	/	/	B	A	/

## 《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	総合的學生支援の取組の一環として、同志社大学、北海道大学、大阪府立大学、甲南大学が昨年度まで取組んでいた「4大学IRネットワーク」を母体とした大学IRコンソーシアムに加盟し、1年生及び上級生調査を行った（神・社・法・経・商・理・総）。また、北海道大学を代表校とした「教学評価体制（IRネットワーク）による学士課程教育の質保証」（平成24年度 文部科学省 大学間連携共同教育推進事業）に連携校として参加し、学士課程教育の質保証システムの創出と教学支援組織の育成を目指した活動を行った。
目標2	退学率は1.40%（昨年の本学の自己評価の作成時点では1.29%）で、2%未満の保持という指標は達成できた。引き続き、具体的な理由を調べる必要はある。
目標3	2011年4月1日、学生部学生支援センターと教務部キャンパス自立支援課を統合し、大学直属の「総合支援センター」を設置した。この組織統合により、「こころ」と「からだ」に困難を抱える学生に対する支援を総合的に行なえる体制が構築された。2013年4月には、大学の組織改革により学生生活支援機構の組織となる。
目標4	学部・研究科における部局独自のキャンパスハラスメント研修に関して、2009年度以降は10件、相談員対象は2件で計12件の開催であった。
目標5	総合体育館を使用する課外活動団体の使用増加時間を目標として951時間20分と設定したが、時間外使用も含めると、2倍以上の2000時間を超える大幅な増加を実現できている。
目標6	2013年度入学者を対象とした入学前予約型奨学金制度（ランパス支給奨学金）の募集を2012年秋に実施した。123名の応募があり、113名に採用予定候補者通知を行い、入学者40名を採用した。
目標7	現行支給奨学金制度の規程改正を行い、2013年度より募集時期を秋学期に変更した。
目標8	緊急時貸与奨学金規程を新設し、2013年度より運用を開始する。
備考	

## 《評価指標データ》

（特定項目データ）本項目は数量的なデータによる評価（現状分析）が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

		単位	2008	2009	2010	2011	2012	備考	
指標1	在籍学生一人あたりの奨学金金額	支給	円	29,117	35,968	34,705	36,251	42,545	支給奨学金総額÷在籍学生数
		貸与	円	241,754	262,927	276,225	283,781	281,690	貸与奨学金総額÷在籍学生数
指標2	奨学金採択率	支給	%	9.0	9.9	10.0	10.2	11.3	支給奨学金採択者数÷在籍学生数
		貸与	%	32.5	34.7	35.2	36.0	36.4	貸与奨学金採択者数÷在籍学生数
指標3	奨学金受給者一人あたりの額	支給	円	322,144	363,566	346,311	354,728	376,516	支給奨学金総額÷支給奨学金受給者数
		貸与	円	744,664	758,307	785,761	787,615	773,571	貸与奨学金総額÷貸与奨学金受給者数
指標4	学生支援相談室の利用者数	人	2,257	2,018	2,432	2,752	3,072	利用者数は延数	
指標5	退学者比率	%	1.32	1.38	1.29%			当該年度退学者数÷当該年度在籍学生数(5/1現在)	
指標6	学生生活の充実度	%	88.1	-	89.2	-	87.5	「非常に充実している」「かなり充実している」「まあまあ充実している」「あまり充実していない」「全然充実していない」のうち「非常に充実している+かなり充実している+まあまあ充実している」とする。(CCA調査 2年に1度実施)	
指標7	学生会公認団体/自治会傘下団体の構成員比率	%	22.03	21.91	21.15	21.35	20.26	(学生会公認団体構成員数+自治会傘下団体構成員数)÷在籍学生数	

注)奨学金は学内および学外を合計した金額とし、指標1～4は学部生、大学院生、専門職大学院生を対象とし、指標5～6については学部生を対象とする。

注)指標4は、西宮上ヶ原キャンパス、神戸三田キャンパスの利用者の合計とする。

注)指標7について、学部生を対象とし、学生会公認団体は6総部(体育会、文化総部、応援団総部、新聞総部、総部放送局、宗教総部)、自治会傘下団体は法学部自治会、商学部商学会研究会委員会とする。母数となる在籍学生数は5月1日現在の数字。

注)指標6では2011年度進捗状況報告より、2006年に遡って『CCA調査Q1. 大学生生活の充実度』のデータを採用。これまでデータとして使用してきた私大連「学生生活実態調査」が4年おきにししか実施されず、またその調査からの関学生のデータ抽出を取りやめたため。